

人権教育
○全体構想

(生徒の実態) ・互いのよさを認め合い、他と協力し合って明るく楽しい学校生活を送ろうとする生徒が多い。 ・他者の意見を基に考えを深めたり、異なる意見をすり合わせ、納得点を見付けたりすることが苦手な生徒が多い。 ・温かい思いやりの心で他に接しようとする生徒が多いが、心ない言葉を使ってしまう生徒が一部に見られる。	学 校 教 育 目 標	
	心豊かで、創造力と実践力のある自立した人間の育成 【友愛】 品位があり、友愛の精神に満ちた生徒 【創造】 自ら学び、創造的な知性を身に付けた生徒 【剛健】 希望をもち、剛健な心身で生きる生徒	
	人 権 教 育 の 目 標	

・教育活動を通して、一人一人がかけがえのない存在であることを自覚し、互いに励まし合おうとする心と態度を育てる。 ・人権に対する正しい理解と認識を培い、人権が尊重される社会づくりに向けて、主体的に取り組む意欲と実践力を高める。 ・豊かな人間性の醸成に努め、他者と協働し、居心地のよい学校づくりを目指そうとする態度を育てる。	(学習機会を保障する活動の確認) ○実態把握 ・学力診断 ・アンケート ○授業改善 ・基礎基本の徹底 ・授業評価 ○キャリア教育の充実 ○家庭学習の習慣化 ○不登校生徒への対応 ○校内教育支援委員会 ○学習支援委員会	
--	---	--

本 年 度 の 重 点	
① 「南砺市子ども権利条例」の施行（R5.4.1）を機として、一人一人がかけがえのない存在であることを意識できるように、「いのちの教育」を進め、自他の生命と人権を尊重していこうとする態度を育てる。 ② 全教育活動を通して、ほめたり認めたりする機会や自己決定の場を増やすことにより、一人一人の自尊感情や自己有用感を育む。また、互いの違いやよさを認め合い、励まし助け合う温かい人間関係づくりに努める。 ③ 豊かな人間性を育むために、交流や体験活動等で協力して主体的に取り組む学習活動を設定する。 ④ 教師、生徒ともに学校生活全体における言語環境を整え、温かい人間関係の構築に努める。 ⑤ 一人一人の心の健康に常に配慮しながら、援助希求的態度とストレス対処スキルの育成を図る。	

学 年 別 指 導 の 重 点		
1 年	2 年	3 年
・自分自身を見つめ直したり、仲間と共に認め合ったりするなかで自尊感情を育てる。	・様々な出会いを通して、自分と地域・社会との関わりに気づき、今できることを考える力を育成する。	・集団の一員として、仲間とともに共生していく心と態度を育てる。
学 年 別 重 点 目 標		
1 年	2 年	3 年
・互いに明るい挨拶を交わしたり、温かい言葉をかけ合ったりして、相手を大切にすることができる。	・互いの意見をよく聞き、諸活動や学校行事で協力し合うことができる。	・自分に自信をもち、互いの意見を尊重し合い、誰とでも協力し合える実行力を身に付ける。

教 科	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	特別活動			家庭・地域・社会
○一人一人の考えや思いを大切に、学び合う楽しさを味わうことができる授業展開を工夫する。 ○人権教育に関わる単元を設定し、計画的・継続的に指導する。	○差別やいじめのない生活の実現に向けて、自他の人格を尊重し、自らの生きる基盤となる道徳的実践力を育てる。	○他者の生き方を自己の生き方や将来の姿と重ね合わせることで、他者や自分のよさを発見するとともに、地域社会に参画しようとする意識を高める。	○学校生活の中で諸問題に気づき、それを解決していく自主的な活動を通して、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育てる。			○学校と家庭・地域社会が一体となって人権教育を推進する。
			学級活動	生徒会活動	学校行事	
社会「日本国憲法」 技・家「ネットワーク社会で求められるエチケット」 保健「心の健康」「エイズの予防」	A(4)希望と勇氣、克己と強い意志 B(6)思いやり、感謝 C(11)公正、公平 D(19)生命の尊さ	1年 「郷土を知る」 2年 「地域の方から生き方を学ぶ」 「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」 3年 「地域社会の課題」 「地域のためにできること」	「自己理解、他者理解」 「自分を見つめよう（とやまゲンキッズ作戦）」 「生活振り返りカード」 ストレス対処スキル	「あいさつ運動」	修学旅行「いのちの教育」（被爆エノキⅡ世） 人権に関する集会「いのちの講演会」	・PTA家庭教育学級 ・校区内巡回指導

